



シンチョウゲ

63 編は **ダビデの詩、賛歌** です。端書きに **ダビデがユダの荒れ野にいたとき** とありますように、最初の連は端書きの状況にぴったりと合っています。

神よ、あなたはわたしの神。わたしはあなたを捜し求め／わたしの魂はあなたを渴き求めます。あなたを待って、わたしのからだは／乾ききった大地のように衰え／水のない地のように渴き果てています。(63:2) 見渡す限り憩いの場は見当たらない、魂の渴き。大地は干上がり乾き切っている、喉を潤す水もない。苦しい人生のさなか、そのように感じる時があります。

けれども詩人は次の連で、**今、わたしは聖所であなを仰ぎ望み／あなたの力と栄えを見えています。(63:3)** と、荒れ地ではなく、聖所にいると言っています。これは詩人が祈りを捧げる時、現実には荒れ地のただ中であっても、神の前にいるのであり、その場所は聖所となると言っているのでしょう。主イエスがシカルの井戸辺でサマリアの女に **あなたがたが、この山でもエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。…まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。なぜなら、父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ。(ヨハネ 4:21)** と言われたように、霊と真理をもって神の名を呼ぶとき、そこに神が共にいて下さり、どこであっても、礼拝が捧げられる聖所となるのです。詩人は聖所で、賛美と感謝と喜びの祈りを捧げています・

あなたの慈しみは命にもまさる恵み。わたしの唇はあなたをほめたたえます。

命のある限り、あなたをたたえ／手を高く上げ、御名によって祈ります。

わたしの魂は満ち足りました／乳と髓のもてなしを受けたように。

わたしの唇は喜びの歌をうたい／わたしの口は賛美の声をあげます。(63:4)

神と共にある祝福を心から歌い上げています。次の **床に就くときにも御名を唱え／あなたへの祈りを口ずさんで夜を過ごします。** という箇所は、**あなたの翼の陰で** という語句と共に、闇の中にあっても憩いが与えられるという平安を感じさせられ、信仰を与えられた者の確かさを感じます。

また、**わたしの命を奪おうとする者は必ず滅ぼされ／陰府の深みに追いやられますように。剣にかかり、山犬の餌食となりますように。(63:10)** と、現実の敵からの保護をも願っています。最後にダビデ王を称えるかのように締めくくっています。神によって、王は喜び祝い／誓いを立てた者は誇りますように。偽って語る口は、必ず閉ざされますように。

『讚美歌 21』では、207「ほめよ主を」 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2013-03-01> が、神と出会う喜びを高らかに賛美しています。私は 437「行けども行けども」 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2016-06-03> が第一連の言葉に呼応しているように感じます。ジュネーブ詩編歌のリコーダーのメロディは 63 編の **わたしの唇(2回)、わたしの口、口ずさんで** などの、賛美を捧げて、歌うような、息遣いを感じさせる演奏です。 https://www.youtube.com/watch?v=FZmNiw_Wv4&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=63